

## 平成 27 年度第 2 回札幌市子ども・子育て会議 質問・回答（後日回答分）

平成 28 年 1 月 25 日（月）に開催されました「平成 27 年度第 2 回札幌市子ども・子育て会議」において、後日回答することとされておりました案件につきまして、以下のとおりご報告いたします。

### 《平野委員質問要旨》

まちづくりに関する若者ワークショップのような企画がなされるのは結構なことであるが、ハイティーン（中高生）の若者たちからの意見聴取をもっと広く行うための仕組みを考えることが大事だと思う。

彼らの年代にとっての魅力をヒアリングしたものが、どのくらい、どのような形で反映されているか。

### 《事務局回答》

アクションプランの策定に当たっては、子ども向けに計画案の内容を分かりやすくまとめた冊子を全小中学校に配布するとともに、小中学校・高校に職員が出向き子ども出前講座を実施し、職員が市の現状等を説明した後、子どもたち自身が課題や解決策を考え、討論して発表を行い、最後にキッズコメントとして意見を提出してもらった。その結果、1,189 人という非常に多くの子どもたちから 1,926 件もの意見をいただいたところ。

いただいた意見の多くは、市が現在行っている取組やこれから新たに行おうとする取組と方向性を同じくするものであったことから、計画案の修正には至っていないものの、いただいた意見に対してはそれぞれに市の考え方を示し、それを子ども向けに分かりやすく小冊子にまとめ、全小中学校へフィードバックしたところ。

これら一連の取組が、子どもたちに札幌のまちづくりに対して考えるきっかけを与え、さらには、子どもたちの中に芽生えた「市政への参加意識」をより確かなものとし、ひいては、将来の札幌を支える「市民力」を育むことになるものと考えている。

例えば、アクションプラン内の事業の一つである「札幌緑小学校区多世代交流施設整備事業」では、小・中・高校生で行うワークショップでの意見を施設の設計に取り入れるなど、積極的に中・高生の活躍の場を創出しているところです。